

交換留学帰国報告書

記入月日: 令和元年7月9日

氏名: 安江 詠星

留学時所属&学年: 国際地域学部 国際地域学
科 グローバルアプローチ 3年

留学先大学	マラヤ大学
留学先国	マレーシア
留学期間	10か月
留学開始-終了日	2018年9月3日 - 2019年6月30日

報告書上での氏名公開について（どちらかに○をつけてください。）

帰国報告書：公開を 希望します ・ 希望しません

月例報告書：公開を 希望します ・ 希望しません

【留学前: 留学に至った経緯や留学準備について】

1. 交換留学を希望した動機について教えてください。

もともと海外で英語を使って学ぶことと日本を外から見ることに強い関心があったので志望しました。

2. 留学準備を始めた時期はいつ頃ですか。何から準備を始めたかについても教えてください。

出国の2か月前にスーツケースを、1か月前に航空券を買いました。

3. 留学先を決めた経緯について教えてください。また、派遣先の大学や現地情報についてどのように情報収集を行いましたか。

PBLの海外研修でタイに行った際、東南アジアの英語レベルや国の発展スピードに関心を持ち、東南アジア圏、できれば行ったことのない国、英語が通じやすい、発展の注目度が高い、多民族国家、馴染みのないイスラム文化圏などいくつかの要素が当てはまったのがマレーシアでした。短期の研修で行った同期に大学の様子などは聞きましたが特に詳しく情報収集はせずに行きました。

4. 留学に向けての語学試験対策、各種語学能力試験などの受験回数について教えてください。

TOEFL ITP を 6、7 回ほど受けたと思います。対策はひたすら過去問と復習です。

5. 留学準備を進める際に役に立ったことについて教えてください。

(例: 助言教員、国際課、留学経験者からのアドバイス、大学情報ウェブ、留学オアシスなど)

国際課の事務手続きのサポートはかなり助けになりました。

6. 渡航前の履修登録や単位認定に関して、苦労したことやアドバイスはありますか。

履修科目が渡航後の授業開始時までわからないので単位交換ができるかどうかは全く分からなかった。自分の学びたいことに沿って履修を組んだほうが良いと思います。

【留学中: 大学生活や日常生活について】

A. 大学生活

1. 大学の校風や雰囲気はどうでしたか。

首都のクアラルンプールの中心部に位置していますが、かなり広い大学で自然が豊かすぎるキャンパスでした。校舎は古いですがトイレは何故か清潔で綺麗です。マレーシア人だけではなく中東からの正規留学生も多いです。交換留学生もアジア圏を中心に多くいました。

2. 大学構内の設備(ネット環境、学習支援、スポーツ施設等)について教えてください。

ネット環境は日によって Wi-Fi が切れたり遅くなったりあまりよくはなかったです。資料の印刷はわざわざコピー屋にいかないといけないのでかなり面倒でした。その際に USB メモリを使ってしまうと 100% ウイルスにかかるので google drive や Gmail などクラウドを利用する必要があります。学内寮や学外の寮からはバスで移動が基本となります。

3. 参加していたサークルや部活はありますか。部員の数や活動内容、イベントなどについて詳しく教えてください。

わかりません。周りの留学生でサークルに参加している人はいませんでしたがダンスコンテストや持ち込み企画のイベントはありました。

B. 授業や勉強

1. 留学先で履修した科目

1	<p>●科目名(担当教員名): Chinese culture and society in southeast Asia (Dr. Ngu lk Tien)</p> <p>●時間数/週(単位数): 3(3)</p> <p>●クラスの学生数: 約 15 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 中国文化という視点から東南アジアの歴史や文化について学んでいく授業です。シンガポールやマレーシアの都市部など、現在の東南アジアの発展は大陸から渡ってきた中華系のビジネス基盤抜きでは語れないので、自分にとっては新たな学びの連続で充実していました。また東南アジアの中でも国によって中華系に対する政策の違いやそれが現在の国の発展へ与える影響などの講義が興味深かったです。プレゼンが一回、大きなレポートが一回、オンラインの小テストや課題が一回ずつあった。課題になっている英語の資料を読む前に日本語でレポートや論文やを読むことで予備知識をつけてから臨みました。</p>
2	<p>●科目名(担当教員名): Politics and Government in Southeast Asia (Dr. Chong Wu ling)</p> <p>●時間数/週(単位数): 3(3)</p> <p>●クラスの学生数: 約 40 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 東南アジアの政治体制や歴史についての概要的な授業。なぜか先生が英語で説明した後にマレー語で説明するため集中力が全く続きませんでした。内容もスライドを読み上げて説明するスタイルなので正直 Wikipedia を読みながら講義を聞いたほうが初学者としては理解がしやすかったです。予習復習はノートにわかりやすくまとめる程度でした。試験内容がまさかの昨年と同じ内容でヤマが外れて大変な目にあいました。</p>
3	<p>●科目名(担当教員名): Ethnicity, Identity and Politics of Minorities in Southeast Asia (Dr. Mala Rajo Sathian)</p> <p>●時間数/週(単位数): 3(3)</p> <p>●クラスの学生数: 約 20 名</p> <p>●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 東南アジアのマイノリティ問題についての授業。留学中一番印象に残っている授業で普段焦点が当たらない少数派の民族問題などを毎週1トピックずつ学んでいき、解決策についてディスカッションしていく。講師の英語が流暢でマイノリティに寄り添いながら中立的に物事を語る姿勢が好きでした。毎回まずは日本語で資料を探して読み込み、その後スライドや添付資料で予習をするという勉強をしていました。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名):Lecture Series on ASEAN (Profesor Madya Dr. Hanizah Idris) ●時間数/週(単位数): 3(3) ●クラスの学生数: 約 30 名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等):ASEAN の概要的な授業でその成り立ちや歴史について学んでいく授業でした。正直友達に借りた ASEAN 解説本と全く同じ内容でしたが 2 回ほど官僚などのゲストスピーカーの講演があったので実際に政府側のリアルな意見を聞いたのは良かったです。しかし課題の量がかなり多く、途中からモチベーションが下がっていった授業でもありました。皆さんはまじめに授業を受けましょう。
	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名):China-ASEAN relations () ●時間数/週(単位数):3(3) ●クラスの学生数: 約 12 名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等):ASEAN 諸国と中国の關係に焦点をあてた授業。1 セメスターの中国文化の授業とは異なり、より国際關係学よりになっている。国によって現在の中国との付き合い方が異なり、日本からではなかなか学べない視点だったので良かった。期末テストに加えプレゼンが一回、小テストが一回あった。指定された課題は少なかったが予習する必要はあった。
	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名):Comparative Regionalism (Dr. Balakrishnan) ●時間数/週(単位数):3(3) ●クラスの学生数: 約 60 名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 国際關係のなかでも地域主義について焦点をあてた授業。昨今の地域機構設立のトレンドをたどり、それを形作る要素の比較、ASEAN や APEC のようなマレーシアに關係のあるものだけではなくアフリカや南アメリカなどの地域機構も取り扱いながら俯瞰的にそれらの違いや共通点について検討していくような授業でした。歴史的な背景や理論的な部分は理解していくことが前提で(ローカル学生はすでに把握している模様でした)ついて行くのがかなり難しかったです。期末テスト以外に小テストやグループプレゼンがありました。スライドをあげてくれなかったのはつらかったです。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名):Urban development of southeast Asia (Profesor Madya Dr. Norhaslina Binti Hassan .) ●時間数/週(単位数): 3(3) ●クラスの学生数: 約 25 名

●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 東南アジアの都市開発についての授業です。近年の東南アジアでの急速な発展スピードとは裏腹に、環境破壊やインフラ設備がおいついていないのが現状なのでそういった負の側面に焦点をあてた講義が多かったです。特に今後の発展に向けての「持続的な開発」をどのレベルまで普及させるというのがポイントになっており、興味深かったです。期末テストの他にペアプレゼンがありました。しかしペアの中国人留学生が全く英語が話せないというハードモードでしたが何とか乗り切りました。また、毎回課題資料の中から質問をされて発言を求められるので予習が必要でした。

2. 授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫をしたことはありますか。

自分が留学生でローカル学生のカリキュラムの途中から参加するという背景があるため、予め予備知識がいる授業が多いため、前もって予習として日本語でニュース記事やレポートを読んで授業に臨んだ。

3. 学習面で困ったことや、その解決方法について教えてください。

先生の中にはスライドをアップしない授業もあったので予習復習に苦勞した。なるべく講義に集中して簡単にポイントでまとめるといった努力をした。

4. 授業スタイルはどのようなものでしたか(講義聴講、ディスカッション等)。また、それに対してどのような印象を持ちましたか。

マラヤ大学の場合講義にあてられるレクチャーの時間が2時間、ディスカッションやプレゼンを行うチュートリアル時間が1時間と決まっており、どの授業を履修しても必ずプレゼンやディスカッションの授業はあった。準備は大変だったが講義だけの授業にならないように工夫されていてよかったと思う。

5. お薦めの教員や授業などがあれば教えてください。

Ethnicity, Identity and Politics of Minorities in Southeast Asia (Dr. Mala Rajo Sathian)

東南アジアにおけるマイノリティの問題を扱った授業。東南アジアから連想されるリゾートや発展している都会といった印象の裏にある、大きく扱われることが少ない民族問題について学んでいく。履修している学生にとっては当事者的な問題であり、発展と開発で無視されてきた諸問題について解決策も含めて議論していくため独特の緊張感があった。東南アジアについて

学ぶことに興味があればこういったメインピックとして扱われにくい問題について学ぶことに意義はあると思う。

C. 居住環境や日常生活

1. 居住場所について教えてください。

形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他()
部屋人数	(2)人部屋→4 人部屋
寮・アパート名	kk10(学内寮)→International House (IH)(学外寮)
家賃に含まれた費用	<input checked="" type="checkbox"/> 光熱費 <input checked="" type="checkbox"/> 水道代 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット代 <input type="checkbox"/> 食費 <input type="checkbox"/> その他()
ネット環境	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
室内設備	<input checked="" type="checkbox"/> ベッド <input checked="" type="checkbox"/> 机 <input checked="" type="checkbox"/> 椅子 <input checked="" type="checkbox"/> クローゼット <input type="checkbox"/> 電話 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> シャワー・浴室 <input type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房機器 <input type="checkbox"/> その他 ()
共用設備	(洗濯室、コンビニなど自由に記入してください。) Kk10 の場合、トイレ・シャワー・冷蔵庫・洗濯機・乾燥機・キッチンは共用。冷房はないが天井にファンがあり、なんとかなる。

2. 大学、住居周辺の施設について教えてください。

(銀行、現地のスーパー、日本食レストランやスーパーの有無など)

学内寮(kk10)には食堂やミニマートがあり必要なものは大体安価で買えるが不定期で閉まる。ショッピングモールに行くには学外に出る必要があるためバスを乗り継いで行くか配車アプリを使う。学外の寮(IH)では横に小規模のショッピングモールがありスーパーやコンビニがあるため大抵のものは揃えられる。食堂はないが 10 分も歩けば中華系の店が並ぶエリアがあるので 300 円ほどで色んな種類のご飯が食べられる。また定期的にマーケットも開かれるので楽しい。

3. 現地銀行開設の有無や、現金入手方法、クレジットカードの利用頻度などについて教えてください。また、留学費用や現地での支出の管理はどのようにしていましたか。

現地で銀行開設はできなかったためオンライン銀行のデビットカードを持って行って現地の ATM で引き下ろした。日本円もまとめて持って行って両替もした。

4. 渡航直後に必要だったものや、あって便利だったものを教えてください。また留学期間を通し、日本から持参すべきだったもの、持参しなくてもよかったと思うものはありますか。

虫よけとムヒ。他の大抵のものは現地で揃うので特になし。柿ピーの他の味は売っているのになぜか梅しそ味だけは売っていない。

5. 留学にかかる必要経費について教えてください。(現地通貨＝リンギット)(例:USドル)

内容	金額	内容	金額
渡航費(往復)	65000	食費(ほぼ外食＝交際費で計算)	50000
保険代(日・現地)	160000+12000	家賃	160000
予防接種・ビザ代(ビザ代行利用)	30000	教科書代	0
交際費(外食等)	400000	その他(旅行・交通費など)	100000

合計:977000 円

6. 文化・習慣の違いなどで気をつけていたことやアドバイス(服装・マナーなど)があれば教えてください。

常夏の国なので冬着は必要ないが建物の中や電車やバスが異常に寒いときがあるのでパーカーや長ズボンは必要。ムスリムが人口の多くを占める国なので彼らの前ではお酒や豚肉の話避ける(食べられる店はいっぱいあります。)ラマダンなど日本では馴染みのない文化を尊重する。

D. 健康管理

1. 周辺の病院や学内での医療サービスについて教えてください。

マラヤの学内保険に加入すれば学内の医務室が無料で使える。医務室は病院みたいな感じで薬も無料で処方される。学外にも日本語が使える病院がいくつかあり福井大学経由で加入する保険に入っていればキャッシュレスで利用できる。

2. 留学中に通院や入院はしましたか。その際にかかった医療費はいくらでしたか。

2度ほど高熱で利用したことがあったが保険でキャッシュレスだったので実質無料だった。

3. 渡航前に必要だった健康診断や予防接種、日本から持参した薬などはありますか。

外務省からの指定はなかったが肝炎 ab、破傷風、日本脳炎の予防接種を打った

【留学後：成果や今後の進路について】

1. 交換留学の成果について教えてください。

留学前はとにかく ASEAN について学びたいというざっくりとした目的しかありませんでした。渡航後に講義を受け学ぶにつれて、東南アジア(ASEAN)へのイメージの変化があり、日本から見た一元的な ASEAN という単語の裏にある複雑な背景について学ぶことができました。また東南アジア各国を旅する中でわかった英語の偉大さや習熟率と国の事情の関係も興味深いものでした。各国の植民地時代からの冷戦の歴史、国民国家の枠組みで起きてしまう問題などを学ぶことができ良かったです。また渡航後しばらくは寮の設備や生活スタイルなど不安になることも多かったですが楽観思考で乗り切ることができました。留学を終えて改めて英語の重要性や日本からは見えにくい東南アジアの発展を感じ、これからの自分のキャリアに生かしたいと考えています。

2. 留学中に達成が出来なかったことやその理由、反省点があれば教えてください。

英語力のクオリティ。良くも悪くも発音が気にされない国なので(みんなそれぞれの訛りがある英語を使っているため)発音が劇的に向上したとかがない。予習をするときに最初から英語検索をしていればもっと英語のインプットが増えたかもと少し後悔している。現地の日本企業との関わりがあまりできず PBL や自身の進路にうまくつなげることが出来なかった。

3. 今後の目標や挑戦したいこと、進路や就職活動について教えてください。

職を得ること。2019 年以内に TOEIC900 点以上とること。

4. あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージをお願いします。

マラヤ大学はマレーシアで最も歴史が古く、世界大学ランキングでも 70 位に入るなど国内だけでなく中東からも優秀な学生が多く集まる大学です。設備が古かったり東南アジア特有のいいかげんさだったり大変なことも多いですが、授業の質や生徒の学習意欲も高く、英語もほとんどの場所で使えます。米国やヨーロッパとはまた違う「英語圏ではない場所で英語を使って学ぶこと」の意義が見つかると思うのでちょっと意外でカオスな留学生活を送りたい方はぜひマレーシアのマラヤ大学への留学にチャレンジしてみてください。